

令和元年度 第2回 加西市子ども・子育て会議

日時：令和元年10月8日（火）

14時59分～16時53分

場所：加西市役所1階多目的ホール

1. 開会

2. 報告

・就園前児童保護者インタビュー結果

○会長

主としてすぐできる、できないという相談もあります。同じトーンではなくて、財政投入しないとできない提案、意見とか。せっかくの意見ですので、事務局で整理をしていただけるとよいと思います。今後の生かし方の提案です。5番目に消防団についてあります。これはどうでしょうか。

○事務局

前回の会議録を、A委員の提案書も含め、市長まで報告しています。消防の方も今、定員の削減を検討しています。この9月議会にも消防団の団員数を減らす議論がありました。今後も継続して消防団の検討ということですので、こういった点あわせて検討いただければと思います。

○会長

本委員会の直接の課題ではないですが、できるだけご意見に沿うように、効率よく、消防団の活躍が可能であれば願っております。

小児科、皮膚科の話がありました。加西市は大人に対応する病院があるとしても、就学前ということでは、毎日の子供の状態が変わることがあります。医療機関とのネットワークがあれば安心です。学校には学校医という病院とのネットワークがあります。加西市として子どもの命を守る医療機関とのネットワークを整理していくことも、この意見の中には、具体的に示すこと。公報とか、保護者にとって不安がないように情報提供を。加西病院等、今あるところをきちっとネットワーク化しておくことも大事な地域づくりです。お子さんの健康、命を預かる環境構築は非常に重要です。

○B委員

私はぜんぼうキッズ、幼稚園にお世話になっています。ぜんぼうキッズはそのときまでは登録制で、同年代の子たちが同じときに集まって、スムーズに園に行けるように、きちんと座ってお話を聞いたり、先生はどんなことをするか、園に行くまでの練習になって、とても子供には役に立ちました。でも、その登録制が2年前ぐらいになくなり、自由に行けるようになりました。

いろんな意見がありますが、私は登録制にはすごい意味があると思います。先生との信頼や、行っていた時期のお友達とのお話ができたり、信頼関係があって、相談することができます。

ほくぶキッズとぜんぼうキッズがあるので、どちらかで登録制をやっていただければ、保護者として行く場所を選べるのでよいと思っています。

○会長

2つがキッズとしてあるんですね。ねひめキッズがなくなって残念とありました。何ゆえにそうなったのですか。

○事務局

市が運営している広場はほくぶキッズとぜんぼうキッズの二つ、以前はねひめキッズもあって三つでした。ねひめキッズはもともと自由に皆さん来れる広場で、ほくぶキッズ、ぜんぼうキッズは公民館で始まったこともあり、事前登録して、年間通しての参加となり固定された方になります。

登録された方は、皆さんが同じ時間、日に集まりますので当然親密になる、関係づくりが構築しやすい。自由な広場の方は、自由に来ますので、出会いとか関わりを深めていくことは難しい。

どちらも一長一短があります。2年前にねひめキッズがなくなり、ほくぶキッズとぜんぼうキッズだけになったときに、どちらも自由に行ける広場で始まりました。登録がよい方も、自由になってよいという方もあります。調整が難しいですが、両方うまくできる方法はないかということを保護者や利用者の意見を聞きながら、どういう形がいいのかという状況になっています。

○会長

登録制の善し悪しもあると思います。どのように克服していくかは大きな課題だと思います。二つ事例を紹介しますと、私は三田市の多世代交流館、通称「ふらっと」の協議会の会長もしています。立ち上げのときからプログラムの設計に関わっています。そこは登録制ではなくて三田市の市民の人はいつでもどうぞ。ちょうど大型ショッピングセンターと割合隣接していて、アクセスがいいのかもしれませんが。閉鎖的でなく、いつでもどうぞという形で、いろんな人たちが来られています。その同じ建物の向かいにあるシニアの人、あるいは中高生もいて、まさに多世代交流館というような地域の触れ合いの場所で、多世代が相互乗り入れしながら交流をしています。登録制をとっていないですね。また機会がありましたら一度のぞいてみて、運営の仕方とか参考にしてみたいと思います。

もう一つは、私は週4日、岐阜に通っています。明日も朝4時起きで、5時に家を出てという勤務をしている。その私の通う大学の中に、「くれまちす」という子育て支援センターがあります。これは、岐阜市が大型予算を組んで、たまたま大学の施設を提供して、市と協働でやっています。

一応登録制になっています。毎日登録制で誰が来られてもいいという感じです。緩やかな登録制で、それ以外の人はお断りということはなく、いつでも誰でもウェルカムです。

登録制というのは形だけのことで、大学の環境もよいです。芝生や木漏れ日で大きい木の下でくつろいだり、いろいろなプログラムを組んでいます。私、その「くれまちす」という子育て支援センターのセンター長もやって、たまに顔を出したりしています。うまくいっていますね。

三田の多世代交流館も岐阜の「くれまちす」も医療機関とか深刻な相談事例があったら、きちっと責任持ってつないでいけるスタッフもいますので、本当に近寄りやすいところだと思います。

岐阜まではちょっと酷なこともかもしれませんが、機会があったら、来てもらえればうれしいですね。私の関係しているキッズ的なところを紹介しました。一度のぞいてみられたら具体の参考が得られると思います。

○事務局

他市の状況も見ながら参考にしたいと思います。

○C委員

以前、ねひめキッズに民生児童委員協議会で見学に行きました。ちょうど10時ごろで、おやつを持って親子が、部屋で一緒に食べていました。なぜ、そこに行ったかと言うと、加西中校区にはその施設がないんです。善防にはあるし、北部にもある。加西中校区も何とか活動ができないかという思いで行ったんですが、その後、立ち消えました。

今、九会地区の子供さんは、主に善防へ行っています。どうしてそれがわかるかと言うと、民生委員は子育て支援で赤ちゃん訪問をしています。そのときに兄弟で上の子がいたら、善防に行っているという話が出ます。登録というのは何か線引きがあるような気がして、入りにくいというのが一般的には思います。善防キッズはそれがなくなって、九会の人たちも行ける。北部は地理的には行きにくいですが、地域に施設がないお子さんにとっては、行きたいところに行けるという感じがします。

○会長

加西市の公民館がとってもいいのは、北部であろうと善防であろうと南部であろうと、全市に開いています。交通のアクセスの問題はいろいろあるかもしれませんが、片仮名で言うとユニバーサルデザインです。市の方、市外の方、どなたでもどうぞという考え方で、緩やかな登録制が必要かもしれませんね。

○D委員

愛の光キッズをやっております。私のところは登録制というものには、こだわりを持っておらず、来られた方には登録していただきます。先ほどの岐阜市と同じように、来られたら名前を書きます。

登録したからって強制はないですし、自由に出入りしてもらっていいので、そんなに枠をきちっと決めているわけではないです。

インタビューの中で、愛の光キッズで、上の子が愛の光こども園に通っていれば、下の子が参加しやすい。別の園に通っている場合は参加しにくいとありました。担当に確認しましたが、特にそのような線を引いたことはないと言っています。どなたが来られてもオープンにしていますので、自由に出入りしてもらえればと思います。

○会長

これは福祉の考え方ではないにしても、いろんな市のプログラムについて敷居を高くするんじゃなくて低くして、どなたでもという考え方が必要かなと。曹洞宗のお寺の学園がありまして、そこに入ると道元の言葉かどうかわかりませんが、「ようこそ、ようこそ」っていう言葉が掲げてありました。そういう感覚っていうのが、公的な施設、私的な施設も含めて、加西市全体としてウェルカムという敷居を低くして、どなたでもどうぞという雰囲気、特に就学前のキッズにあってほしいなと思います。

ほかにどうでしょうか。非常に貴重なインタビューの結果をまとめていただきました。先ほどの整理していただくことも求めたいと思います。

○E委員

5番の消防団のところについて、いろいろインタビューしているのがおもしろくて何となく見た

んですけど、これはどういう意図でしょうか。

○会長

本委員会での課題ではないけれど、意見があったので、脇に置かず組上に載せて、市の方からも意見を重ねていただきました。

○E委員 強制加入のボランティアという矛盾を感じています。PTAと非常によく似ている。

○事務局

この会議で取り扱える問題ではないですが、意見があったことは報告させていただきたいと思いました。

○会長

間接的にお父さん方も、もしそういう制約がなければ夫婦そろって、キッズに行って、我が子や他の子どもにも会って、そういう空気感を体験できるのではないかなという発言があったと思います。

○C委員

その反対意見が地域ではあります。九会小学校区の分団ですが、その消防団に入ることによって、普段、仕事でPTAや参観日とかに出られない人が、夜の消防団の会議が終わった後で子育ての話をしています。ここに「他市から転入した人は消防団に入らなくてもいい」って書いてありますが、他市から入ってきた人が友達づくり、親の友達づくりも含めて、ものすごくいい活動をやっています。先だって福祉協議会の計画策定の委員さんで、他市から来られた人がいて、「僕、消防に入れてもらっているけど、ものすごく消防いいです」という意見もありましたので、そういったことも知ってほしいと思います。

3 議題

「第2期 加西市子ども・子育て支援事業計画」骨子案について

○会長

3章、4章、5章とそれぞれ中身の整えのトーンが違いますけども、ご意見を頂戴したいと思います。特に最後5章で、本委員会の責任が示されております。非常に厳粛な模様でこの課題を受けとめないといけない。計画の進行管理に加西市子ども・子育て会議にて、いろんな点検評価をするという責任が求められておりますので、我々メンバーそれぞれその責任を全うできるよう意見を重ね合わせていきたいと思っています。

さて、3章からご意見頂戴したりしていきたいと思います。3章の計画の基本的な考え方、基本理念、基本的な視点、これについてはいかがでしょうか。これらは他の地方自治体においてもそんなに変わるものではなくて、加西市もそれを踏まえながら示していると思います。基本的な支援の2番、切れ目のない支援、片仮名で言うとシームレス——継ぎ目がない、ファッション界の言葉だ

と思います。ここで2行目に「妊娠・出産期からの切れ目のない支援を行っていきます」ということですが、例えば大垣市では親になるなら絶対大垣市とか、あるいは学校教育とのつながりで、例えば中学校の家庭科の単元で保育という単元がありまして、恐らく女性の方々は、中学校時代を思い出していただいて家庭科の単元で幼稚園、保育所とか、そういった授業があります。男性も参画するんですけども、学校教育といった結婚する前からのシームレスも視野に入れておく必要があるかと思います。

結婚してから子育てがどうこうではなくて、幸い高等学校で子育て体験とか福祉体験とかありますよね。中学校でもありますし、あるいは小学校でも、例えば私が以前勤めてた兵庫教育大学で、4年間附属小学校の校長をしたときに始めたのが、赤ちゃん会です。小学校1年生から、地域の赤ちゃんを抱えます。そうすると1年生が、「かわいい」、「抱きたい」、「赤ちゃんの香りがする」とかですね。5、6年生になると「私も早く親になりたい」とか、良好な親意識をどうやってくすぐっていくか、それを具体化していくか、そういう形をとると、妊娠してからだけのシームレス化ではなくて、学校教育とのつながりも含めて青少年、子ども期からのつながりということも考えて、加西市においてもそのような中学校や高等学校のプログラムがありますので、そういったものをつないでいくということも大事な視点だと思います。結婚してから親意識とか、子育てではないということですね。

それから2の(1)に、「子どもの最善の利益」。これは非常に重要なキーワードで、ここを示していることが非常に大事なこと、すばらしいと思います。児童福祉に限らず、子どもの人権、権利条約とか、いろんな教育・保育における最重要の課題は子どもの最善の利益、もう一つ付け加えるならば私の個人的な意見ですが、「子どもの最善の利益と幸せ」です。

子育てというのは負担ではなくて幸せっていうね。子供が、最善の利益を配慮されることによって子供が幸せだし、それを支えていく大人たちにとっても幸せっていうね。こういう感覚や視点を持っていると子どもを支援するということは加西市のみんなにとっても幸せなことなんだとね。

こういったところに地域づくり、人づくりといいますか、温かい人間感覚をつくっていくという視点もやはりここに込められていると思います。いろいろないい意味で視点を広げながら、膨らませながらこの基本理念、基本的な視点というのを受けとめてみようかなと思います。

○A委員

基本的な視点の2番の切れ目のない支援ですが、今日、園の行事で集まったお母様方と作業をしながらお話することがありました。妊娠しているお母様方がおられて、この切れ目のない支援の妊娠・出産期からって書いてありますが、唯一出産できていた加西病院の産科がなくなり、隣の市まで通っているけど、今通っている病院も来年の2月ぐらいで、もう出産できなくなる、自分はぎりぎりだっておっしゃっているお母さんがいました。

検診とかは、まだ余裕を持って行けるけれど、本当に出産が近くなったときとか、本当に急に体調が悪くなったときとかにすごく不安になるって、そういうときが来るんじゃないかって、ずっと不安になっているとお母さんたちが、おっしゃっていました。

○会長

ありがとうございます。奈良県でたらい回し、大変な事件ですね。病院がなくなって、大変なことが一時期報道されていました。そういう二の舞を、加西市は、今、出産するネットワークはどうで

すか。今のお母さんのお話を聞くと不安になりましたけど。

○事務局

病院ですが、出産ができなくなります。それがもう間近になっています。委員のご指摘があり、多くの方が心配されている実情があります。なかなか市だけでは何とかできないところもありますが、早くお医者さんが戻られて復活していただきたい。

○会長

インフラ環境というのは、経済的効率性だけでなく整えておく必要がありますよね。これは行政の一つの責任としてきちっとある。そうでないと安心して産んで育てるといのはなかなかないと思います。宝塚市に行くと、宝塚歌劇の近くに誰もがそこで出産したいという病院があるんですね。ご存じですかね。

○A委員 はい。

○会長

ありますよね。有名なね。宇治市にも、そこでやっぱりいいドクターおられて、産むなら絶対そこかね。だから私のご近所でも子供が結構産まれるんですよ。その地域で安心して産むことができるインフラ環境というのは、大きな一つの課題ですよ。

特に今、切れ目のない支援というのをを出していただいたら、そういったところも行政計画の中で大事なことじゃないでしょうかね。努力しているという発言がありましたので、それが立ち消えにならないようにぜひ私からも求めたい。恐らく今うなずいてらっしゃる委員皆さんそうだと思いますので、そういったところも具体策としてよろしくお願ひしたい。

○F委員

先ほど会長が言われましたけど、子供の幸せという言葉がすごく大事な言葉で、目指さないといけないと思います。最近、テレビとか新聞を賑わす事件がいろいろ起きています。子供の虐待、それから障害を持つ、発達障害もそうですけど、すごくそういう子供もいる。それをどのようにして周りでサポートできるかっていう、そういう部分も非常に大事なことで、できたらこの中に健やかに育つために大事なのは、子供、親、地域もそうですけど、やはり福祉であるとか、医療であるとか、そういう関係機関などもすごく大事な言葉になるのかなと思いました。

○会長

具体的な表記の提案がありましたので、しっかり受けとめていただきたいと思います。

○G委員

この3章か4章で入れるか迷いますが、児童福祉の分野では要保護児童対策地域協議会というのが全部、いじめから、虐待、障害、そういう方々を支援することが義務化されています。前は県でやってましたが、各市町に置くことが法的に位置づけられています。それをこの鏡で入れるのか、個別の施策の中できっちりうたうのか、ちょっと迷っています。

○会長 どこかにきちっとくさびを打ち込むということですね。

○G委員

F委員が言われた言葉を借りると、その地域の中のキーワードの中で、民生児童委員は100周年を迎えます。今後においても活躍が期待されていますので、この地域の各メンバーの中に主任児童委員や児童委員の活動の部分をちょっと入れてもいいのかなと思います。

○会長

地域社会全体という一つの考え方で、漠然とした地域社会ではなくて、そこに関わるキーパーソンがいっぱいいる。その提案だと思いますので、ちょっとご検討いただきたい。

○事務局 ありがとうございます。

○会長

全体を通すと何か漢字で書いたり平仮名で書いたりする、ちょっと表記上の統一が必要な部分がありますが、それは大したことないですね。4章の計画の施策内容、これは一つのデータをもとにこういう推計値を示しているということによろしいですよ。

○G委員

ネーミングですが、これは行政用語で全部統一されていますか。冒頭の説明の中で、例えば「学童保育」とか、「赤ちゃん訪問」とか出てきますが、これを見る側として、行政用語を整理するのであれば、用語の意味合いがわかるようなものが一番最後につけるとか、「赤ちゃん訪問」というフレーズなら、いわゆる0歳児の訪問を主としてやっていく、そういう形ですよ。それを民生委員児童委員協議会に依頼していると、こういう流れだと思っただけですね。言葉の受けとめ方というんでしょうか。わかりやすくされてもいいかなというのが一つ。

気になったのが赤ちゃん訪問、12ページの参考資料です。上段と下段の養育支援訪問事業、訪問数があります。達成率が90%になっていますが、赤ちゃん訪問の方は90%ということは多分ないと思います。100%でなかったらいけない。それをフォローする意味で保健士が訪問しています。

事業自体は100%、つくった側からするとそうなると思います。これ自体も下側は訪問件数で、人員より多いですよ。これは複数回行っている分だと思います。その意味からすれば、同一人が不在であったとしても2回行ったら、訪問回数的には増えていくわけです。統計の統一性があればうれしいですが。なぜ、こうなったのかという分析をしていただいた上でですけど。

○会長

ありがとうございます。G委員は、県の行政官としてチェックされている。きちっと受けとめていただきたいと思います。

○事務局 わかりました。

○E委員

何回か、例えば一時預かり8ページの一時預かり事業の本文のところですね。大型集客事業、集

客施設みたいな話が出てきますが、それは具体的にどんなことですか。

○事務局

実は集客施設として今、雨の日でも利用できるアステアかさいのような場所での事業ができないかということを考えております。商業施設でもありますので、相手さんとの話があり、具体的な話は何もないですが、空きテナントで一時預かりとか、新たな施設ではなく既存の施設を活用します。事業者運営を委ねるなどいろんなことが考えられますが、これから先に広場をつくるとか、一時預かりをするといったときに、計画上に盛り込む必要があると考え、このように記載しています。

○E委員 西脇のMirai eみたいな感じですか。

○事務局

以前、玉丘史跡公園で児童館を建てる話がありました。なかなか新たな箱物施設をつくることは現状、難しいということもあり、もう少し実現可能な方向で、既存施設の活用を図るとか、そんな話で考えております。Mirai eのような大きなシンボリックなものはすごくいいですが、その中されていることを加西市の場合、既存の施設を使ってできたらいいのではということです。

○会長

役割機能の複合化、多機能化といった考え方を持って、今ある資源を有効活用していくことですね。インフラを整備するともう加西市の財政がパンクしますからね。だから、そういった観点をベースに組み込みながら、それぞれのイメージをよくしていただければと思いますね。

ほかのところはどうでしょうか。15ページは、幼児期の学校教育・保育の一体的提供についてはいかがでしょうか。

○E委員

15ページの幼児期の学校教育・保育の一体的提供及び当該学校教育・保育に推進に関する体制の確保で、その下に「処遇改善を始めとする労働環境への配慮」とありますね。処遇改善を始めとした労働環境の整備、改善のため云々という文章があり、キャリアパスの構築とか関連予算の取得、園内アレンジメントの強化、就業規則の改善ということが書いてあります。

私は施設の経営者で、ご存じのように保育士はかなりの人手不足です。体制の構築のためには、まず基本となる保育士がいないとどうしようもありません。今、特に明石市がこの地域では突出した保育士の獲得作戦をやっています。よくご存じだと思いますが、行政が各施設、こども園とか私立園に給料の補てんをしたり、採用時の一時金を最初、明石市だったら20万円、準備金みたいな形で支給するとか、今まで考えられなかったようなことをかなり派手にやられております。

それに引っ張られて近隣の例えば神戸市、加古川市も、これまで採用できるはずだった保育士が明石市の方へ行ってしまっているので、対抗していろんな対策をしている。

すると、玉突き現象になって今度は加西市で採用しなかった学生が、加古川市とか三木市とかへみんな行くわけです。「これだけもらえるからこの仕事がいい」というのは、決してそうじゃないと思いますが、やはり保育の仕事をしたと思って来た人たちは、どうせなら少しでも待遇のいいところで働きたいと思うんです。彼女、彼らが判断するのは、入ってみたいとわからないというところ

ろがいっぱいありますよね。第一の判断材料になるのは、休みや給料などの労働条件なので、その点で加西市は非常に劣勢だと思います。

行政からのそういった支援を今のところ考えていないようなので、我々としても採用にはかなり苦労している状態です。その点について、もう少し踏み込んだ表現とか、他市のことを想定して、対抗上ですね。決していいとは思いませんが、そういう動きになってしまっていますから。現実的に加西市で、いい保育士さんが来てもらうためにどうしたらいいのかということ、行政としても応援してもらえるような形ではっきりと書いていただくことはできないでしょうか。

○会長

今のご意見、例えば看護師ですね。僕は、私立の大学に幾つか勤務していますが、看護学部がありましたね。病院に奨学金というのがあります。病院で、奨学金を出して、看護師の国家試験を通過して卒業するときには、その病院に何年間、自衛隊と同じかもしれませんが、何年間は服務規程があります。看護の世界は、そのような病院、個人が奨学金を出して、青田刈りですよ。だから就職するんですね。学生時代に奨学金を数万円もらうわけですよ。

私立の園も含めて加西市としてやっぱり子育て支援スタッフの確保をしないといけないということだったら、加西市の奨学金とかね。恐らく言いづらかったと思いますが、入ってからの研修とかプロフェッショナル・グロース (professional growth 教師が学生から現職を通じて、専門的知識・技術を獲得する一連の過程) とか、そういったことを入れたらというご意見と思います。

○E委員 私の言いたかったことを言っていたような気持ちです。

○会長

看護とかでやっていますのでね。全国区でも保育士関係で私的奨学金を出すところもあります。そういう状況も付け加えさせていただいて、そこまでは加西市ではできないという相談なのか、今後そういうこともあり得るのか。全部、明石市にかっさらされていかれるかもしれません。

○E委員 本当にドミノ現象になっていますので考えていかないと。

○会長 そういう現実がありますよと一応お伝えしておきます。

○事務局

具体的などころまでは書き切れないかもしれませんが、何か検討を進めるような形で、そのあたりはちょっと整備させていただきたいと。

○会長

足りないというところをどうするかというと、学校教育なんかでよく統廃合をやってきましたね。小さい学校で、単体でそれぞれ必要な教員を置いとくと、ロスとは思いませんけども、そこを統廃合することによって今の教員をプラスアルファすることなく、むしろ統廃合すると余剰教員が出てくるというソースはあるんですね。ただ、加西市の幼児期の教育・保育をどう整理するか。泉の場合もそういうところがあるかもしれませんからね。プラスアルファのスタッフを雇えなくても、今の足りないところで、十分スタッフとしては足りる状態はできるかもしれません。それも一つの操

作ですけどね。

奨学金制度というのはちょっと強烈的な意見ですけど、私も他地域で、他分野でやっていますので、それも参考にさせていただきたいと思います。市長は、「奨学金やるぞ」って言われるかどうかわかりません。

○事務局 わかりました。

○会長

鈴をつけてください。ほかのところではいかがでしょうか。それでは、次の第5章計画の進行管理のところ、最初、本委員会は非常に重たい責務があるということになりますけど、本当に加西市の命運をかける子育て支援等に関わる判断、評価をしないといけないという気の引き締まる思いであります。ここはいかがでしょうか。加西市のウェブサイトは何となくイメージはわかるんですが、「イーナカサイ」というのは、これは具体的にどんなものですか。

○事務局

子育て情報の発信で、今年まではメールアドレスを登録するとメールが届くサービスをやっていましたが、スマートフォンを持つ方が多くなり、メールよりもスマホだとニュース情報がすぐポップアップするんですかね。それがすごく便利で、そういうサービスが多くなっています。

加西市では、子育てだけでなく防災や観光とか総合的に行政情報を発信するスマホ向けのアプリを今年10月からスタートしました。登録した人が受け取りたい情報だけを選ぶことができるので、例えば子育て情報だけを受け取りたい人には登録すれば、必要な情報が常にメッセージが送られてきます。

○会長

例えば、広報誌とか加西市子育てハンドブック、これは紙媒体ですよ。そういうのも配信できるみたいな。紙媒体は紙媒体であるんですか。

○事務局

紙媒体は紙媒体であります。紙には紙のメリットがあり、詳しい情報が掲載できます。ウェブサイトやSNSはタイムリーな情報を、いち早く相手に送信できます。両方のいいところを活用し、詳しい情報はホームページや広報を見てくださいねと誘導する形です。

○会長

わかりました。行政機関の連携で今後、国や県、近隣市との連携を深める。大丈夫ですか。いがみ合う競争し合う関係ではないですね。

○事務局

各市で相互に子供の受け入れや調整をしていますので、そういう意味で本当に。

○会長

広域行政とよく言われていますから、win-winの関係で広い範囲で定着していくといいで

すよね。ぜひ、広域行政という考え方で進められたらいいでしょうね。

他に何か全体を通してご意見等いただきましたらありがたいですが。特にないようですか。各委員からご意見をいただいたところは、精力的に組み込んでいただいて調整していただくことを求めたいと思います。それでは、本日の議題等について終了します。ありがとうございました。

4 その他

・次回スケジュール等

○事務局

次回に計画の最終案を各委員に最終検討していただきます。前回の1章から5章までを計画案としてまとめます。次回は2月6日（木）、15時から多目的ホールです。

次回、最終計画をまとめます。各委員には、また12月に、ある程度まとまった案をご覧いただいた上で、ホームページ等を通じまして素案を、一般市民の方からもご意見いただきます。パブリックコメントと言いますが、その作業を1月に行いまして、市民からの意見も反映した上で、次回の2月6日に最終検討いただきますのでよろしくをお願いします。

5 閉会

・教育長あいさつ